

男言葉と女言葉

イレーン・ヨー

中学三年生の時、シンガポールと日本の交流プログラムに参加して、浜松に二週間ぐらいホームステイをしたことがあります。ホームステイをしながら、日本のいろいろな習慣を見たり経験したり、日本の文化について教えてもらったりしました。その時私が一番面白くて興味を持ったのは男性と女性の話し方の違いだったと思います。ある時ご飯を食べながら、「あ、うまい。」と言ったら、「男しか使えない言葉よ。」とお母さんに叱られてしまいました。「どうしてお母さんはあんなことを言ったんだろう。」と思って、インターネットで調べてみたら、日本語の話し方には男言葉と女言葉がたくさんあることに気がつきました。こんな違いはよく読んでいる漫画にもあるのに、全然気がつきませんでした。

男性はよく「私」のかわりに「僕」、「あなた」のかわりに、「君」。「何かしようかしら」に対して、「何かしようかな」と言います。「おなかがすく」のは女性の話し方、「腹へった」のは男性。「おいしい」のかわりに「うまい」。「ご飯を食べてる」に対して、「飯食ってる」と言うのを聞きました。

ところが、お昼ご飯を食べている時、妙なことが起こりました。女子生徒が男子生徒の話し方をしたり、多分冗談でしょうけれど、男子生徒も時々女子生徒の話し方をしているんです。女子生徒が“おいしい”の変わりに、“うまい”と言ったり“おれ”と言ったりしているんです。どうしてか分からなくて、南さんという同級生に聞いてみたら、「さあ、時代の変化かな。だいじょうぶだよ、お母さんの前でこう言わなかったらいいじゃん。」と教えてくれました。私は、男性と女性の話し方の違いにますます興味を持つてきました。

男言葉女言葉を考える時、漢字とひらがながなのこともあるのでしょうか。平安時代の女性達は家を出る機会はなく、和歌や小説を作ったり、恋を期待できるだけでした、男性の方は外にも行けるし、友人とお酒も飲めるし、浮気も許されましたから、ずっと自由でした。男性の話し方はその強さを反映しているんじゃないかと思います。反対に、女性の話し方は柔らかくて、男性に従ってばかりいるような感じがします。

現代では、女性の地位がどんどん上がり、一流の大学を出て、医者とか、弁護士とか、いい会社に勤めるキャリアウーマンの数もどんどん増えてきました。それに、

外国からの影響もたくさん受けて、仕事での差別も少しずつ消えていくと思います。

そうすると、男言葉と女言葉の違いもあまりなくなって、南さんの言うようにちよつと変化してくるんじゃないかと思います。

変化というと、原宿や新宿などで若い人の姿を見れば、今の日本は昔の日本とずいぶん違うことが分かるでしょう。特に、女性達の服装と行動です。女子中学生が制服のスカートを短くしたり、はいている靴下を高く引き上げたり、男生徒のような話し方をしたりしています。一方男性達も女性のように美容サロンがあったり、ファッション雑誌に写真がのったり、化粧品も使ったりする人達もあります。

こんなに時代が変化していても、社会的には、まだ女は女らしく、男は男らしくという考えがあります。親が聞いたら、すぐ注意するということもあって、若者は友人としか好きな話し方ができません。私は、こういう女性達が男のようでまたこういう男性達が女のようにだということはおかしいと思います。ある時両親と一緒に日本の街を歩いていた時、通りすぎた女性がいきなり“俺、腹へったな、飯食いに行こうぜ。”と言った時には、びっくりしてしまいました。でも、これからは女性のそんな言い方はおかしいというよりも、人が自由に好きな話し方を選ぶことも大切

じゃないかと思います。